

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府城陽市上津屋境端3番地								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社 イーグルデリカ 代表取締役 井上 隆 二								
事業者の主たる業種	食品製造業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	20年4月～23年3月								
基本方針	空調効率改善を目的とした取り組みの推進と、燃料転換も含めた排出量削減策を具現化する。								
推進体制	生産技術部長を中心に具体策の実施計画策定と、進捗状況の管理システムを継続する。								
	環境マネジメントシステム名称								
	適用範囲								
	取得年月日								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	20年度	空調機	全空調機のコントローラーに特殊なカバーを取り付け、ON・OFF以外の操作を出来ないようにした。						
	20年度	工場加熱設備	LPG・重油燃料のLNG転換を試みたが、LNGタンクの設置場所の問題で計画変更。						
	21年度	工場加熱設備	LNG転換断念により、再度都市ガス転換にチャレンジする。						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （20）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	3,128.0 t	2,900.0 t	-7.3 %	2,988.1 t	-4.5 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	5.0 t	0.0 t	-100.0 %	4.5 t	-10.0 %			
	排出合計	*1 3,133.0 t	*2 2,900.0 t	-7.4 %	*4 2,992.6 t	-4.5 %			
	実績に対する自己評価	増減率-4.5%と数字上は大きな効果となりましたが、要因の大半を生産量の減少が占めており、次年度への取り組み強化を図ります。							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	工場	二酸化炭素換算 生産金額	0.48770 t/M円	0.45143 t/M円	-7.4 %	0.48613 t/M円	-0.3 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
	実績に対する自己評価	排出量-4.5%に対し、原単位-0.3%は生産量の減少が大きく影響しており、又排出量削減の柱としていた燃料転換についても断念の方向となり、新たな削減策を求めていく必要があります。							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）				
		取組量等	（二酸化炭素換算）		取組量等	（二酸化炭素換算）			
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
	削減量等合計		*3 t		*5 t				
差引排出量 （排出合計-削減等合計）		基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
		*1 3,133.0 t	（*2）-（*3） 2,900.0 t	-7.4 %	（*4）-（*5） 2,992.6 t	-4.5 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動									
特記事項	当工場の約200mのところ、古川（1級河川）が流れており、その対岸まで都市ガスが附設されています。当工場に都市ガスを導入するには河川の横断が必要で有りますが、一方古川には河川工事計画がある事から、ガス管の河川横断許可が下りない実情が有りますが、これまで代替策としてLNGの導入を検討して来ましたが、施設の近隣への影響が大きく断念いたしました。再度都市ガスの附設ルート等も検討しましたが、現状では河川工事の完了待ちの状況であり、よい方法があればアドバイスをお願い致します。								

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。  
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。